

# ① 大学の国際化に向けた戦略における事業の位置付けと全学的推進体制

## 【交流プログラムの目的と内容】

**目的：**地球の健康に関するアフリカとの機動的かつ戦略的の大学間ネットワークを構築し、日本とアフリカの架け橋となり、地球規模の課題解決に向けた協働活動を指導的な立場から展開できる人材の育成。

### 内容(インプット)：

- ① プラネタリーヘルス、4テーマに関する講義・プログラムに参加し、異なる背景を持つ同年代の学生と切磋琢磨し、地域、母国、世界での自分に何ができるか考え、さらに
- ② 日本人は英語で学ぶ、アフリカ人は日本語を学ぶ、プログラムの提供

長崎大学

感染症

エコヘルス

海洋  
環境

平和  
軍縮

Planetary  
Health  
Africa-Japan  
Strategic and Collaborative  
Education  
PROGRAM  
NU



オンライン交流

COIL型教育の実施

短期研修プログラム

長崎へ (離島研修等)  
ケニアへ (辺縁地域研修等)

長期研修プログラム

長崎大学へ  
ケニア連携大学へ

シンポジウム

プラネタリーヘルス実現に向けたIoTの活用 (ケニア/長崎)

インターンシップ

長崎大学のネットワークを活かした医療、創薬、IoT、環境企業へ (日本/ケニア)

全学生の参加：その後のプログラムへの導入

アフリカの辺境・日本の離島を見て、比較することによる参加学生の既定概念の再構築化。特に、これから成長するアフリカの学生にとっては、離島で日本の経験から成長に伴う社会課題を考える経験となることを期待。

長崎・ケニア教員の研究指導による研究の実施

学内外・近郊他大学の参加と成果の波及

アフリカにおける日系企業、長崎における地元企業でのインターンシップによる学びの場と新たな課題の発見機会の提供

ケニア中央医学研究所大  
学院 (KEMRI大学院)



マセノ  
大学



ケニヤッタ  
大学



ジョモケニヤッタ  
農工大学 (JKUAT)



長崎大学  
ケニア  
拠点



JSPSアジア・アフリカ拠点形成事業  
「グローバルヘルスの改善・向上に資するIoT学術拠点の形成」プログラムとの連携

### 達成目標:

**アウトプット：**『地球の健康に関する課題解決を牽引する人材の養成』  
**目標：**「日ア延べ95名 (派遣47名、受入48名) の学生交流」とする。アウトカムは、『地球の健康の実現』

**アウトカム：**『地球の健康の実現』

**目標：**「育成した人材がケニアのその他大学・研究機関と学際的に連携して、地球規模の課題解決に向けた教育研究活動を活性化させ、先導的活動を展開し、次世代人材育成につなげていくサイクルの構築」